

住まいあれこれ

住まいは十人十色なものであると思う。住まいに自分の生活をあわせるのではなく、自分のライフスタイルにあった住まいを創ってゆくこと大切だと思う。けれども当然そこには、解決してゆくべき様々な問題が発生する。私は専門家の立場から施主の方の「想い」を具現化するためには、どうしたらよいかを提案し、施主の方とよく話し合いながら住まいを共に創り上げてゆきたいと思っている。

「エレベーターのある家」

今設計中のこの家は、駐車場から二階までのエレベーターが備わっている。以前と比べホームエレベーターは機種も多様となり、それぞれに合った形で取り入れ易くなってきた。

例えばこのお宅の場合は、

二方向から出入りできるタイプを使用しているが、大きさも様々でスペースにあったものを選ぶようになってきている。エレベーターは、新築の場合に限らずリフォームにおいても取り付けられるようになってきているので、高齢化が進むこれからは考慮する一案となってくるだろう。またこの家は一つ一つのスペースをゆつたりととっているのが特長で、家中を車椅子で移動できるように段差を無くし、廊下や浴室、洗面、トイレなどもかなり広めとしている。一階リビングにつながるテラスは、二十帖の広さで、山手の立地を生かして眺望とプライバシーを両立させた空間になる。海の見えるテラスでゆつたりと食事やお茶ができるのも、日々の楽しみのひとつになるだろう。

とつになるだろう。

「ライブハウスのある家」

子育ても一段落、やっと自分の時間が持て始めた。この時間をどのように過ごしていきたいか。そう考えていた時この施主の方は、大好きなジャズの店、ライブハウスをしようと想われたのだ。そして完成した住まいは地上3階地下一階で、一、三階が施主の方の住まい、二階が貸し店舗、そして地下一階が施主の方の夢、ライブハウスとなった。住まいだけでなく、自分のこれからの人生の夢までも形にする建物となったのだ。外観



においては、住まいと店舗を兼ねる建物であるという性格上、デザイン性を重要

視し素材にもこだわった。住まい部分は、採光と通風を最大限に確保し、家族が楽しく集える広がりある空間とした。一階貸し店舗は道路側に大きなガラス面をとり、ディスプレイ効果を持たせている。そして地下一階ライブハウスにおいては、そこに足を踏み入れた人が音楽を楽しめるよう、音響、素材、家具、照明に至るまで施主の方と話し合いをしながら、夢のライブハウス作りを共に楽しんだ。現在ライブハウスもオープンし、施主の方の温かい人柄も加わり、音楽好きな人たちが集まる場所として定着しつつある。

私は、これからも施主の方との話し合いを大切に、共に住まい創りをしてゆきたいと考えている。